

知事と県民の意見交換会（鹿角地域振興局）議事要旨

- テーマ：鹿角地域におけるヘリテージツーリズムの可能性等について
- 日時：令和3年7月16日（金）13:00～15:00
- 場所：【視察】道の駅かづの「あんたらあ」花輪ばやし祭り展示館
【意見交換】道の駅かづの「あんたらあ」多目的ホール

- 参加者：A氏（株式会社かづの物産公社DMO推進室
ヘリテージツーリズム・コーディネーター）
B氏（大日堂舞楽保存会 会長）
C氏（十和田高校毛馬内盆踊同好会 キャプテン）
D氏（十和田高校毛馬内盆踊同好会 顧問）
E氏（大湯ストーンサークル（SC）の会 会長）
F氏（小坂町づくり株式会社 代表取締役）
G氏（花輪ばやし若者頭協議会 会長）

佐 竹 敬 久（秋田県知事）
鎌 田 雅 人（鹿角地域振興局長）

知事挨拶

この会は、毎年、地区ごとに異なるテーマについて話を聞いて、意見交換というよりも皆さんのお話を中心にし、私は勉強するという立場で参加している。観光業界の会長や市長など、あらゆる組織の長との会合に参加することは多く、各団体からのまとまった話はよく聞いている。しかし、実際に現場で動いている方や現場で苦労されている方との意見交換はなかなかできないので、こうした機会に皆さんの話を聞きながら、県の施策や予算に反映していこうと考えている。

今日は、皆さんが今取り組んでいることやこれからの方向性、あるいは取組に当たり悩んでいることのほか、希望や地域に対する思いについて、ざっくばらんにお話を聞きながら意見交換をしたい。

特に今日のテーマに関連して、まもなく、北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録が確実な中で、これをどのように生かしていくのか、このあと地域の様々な産業や観光に影響するので、ぜひ前向きに捉えてお話しいただきたい。

視察

花輪ばやし祭り展示館を視察。

はじめに

（局長）

鹿角地域においては、これまで、ユネスコの無形文化遺産として「大日堂舞楽」や「花輪ばやし」が登録されているほか、今月下旬には、北海道・北東北の縄文遺跡群の一つである「大湯環状列石」がユネスコの世界文化遺産に登録されることが確実視されている。

また、「毛馬内盆踊り」についても、無形文化遺産としてユネスコの事務局に提案書が提出され審査を待っているところである。

一方、小坂町においては、経済産業省が提唱している「近代化産業遺産」として、「旧小坂鉱山事務所」や「康楽館」、県有施設の「十和田ホテル」などが認定されており、重要な観光資源となっている。

本日は、こうした有形・無形の文化遺産の保全や継承、活用などに関わっている皆さんに、それぞれの活動の中で、感じていることや考えていること等をお話しいただきながら、ヘリテージツーリズム、すなわち観光分野での活用や地域の活性化への展開などについて意見交換をお願いしたい。

参加者紹介

(局長)

はじめに、私の方から皆さんのプロフィールを簡単に御紹介させていただきます。

Aさんは、株式会社かづの観光物産公社のDMO推進室で、オンラインツアーの実施や地元小・中学生を対象としたジュニアガイド育成事業など、様々な取組を通し、鹿角の歴史・文化遺産等の魅力を伝えるヘリテージツーリズム・コーディネーターを務めている。本日は、意見交換会のコーディネーター役を担っていただく。

Bさんは、大日霊貴（おおひるめむち）神社の宮司でいらっしゃり、大日堂舞楽保存会の会長として、主に小学校の授業で舞の解説を行うほか、観光客向けのツアーガイドにも取り組んでいる。

Cさんは、現在、十和田高校の2年生で、毛馬内盆踊同好会のキャプテンを務めている。1年生の時から同好会に在籍し、笛の演奏を担当している。

Dさんは、十和田高校の毛馬内盆踊同好会の顧問であり、今年度、新たにふるさと学習「かづの学」で1年生の希望者向けに毛馬内盆踊りのコースを開講し、後継者の育成に取り組んでいる。

Eさんは、大湯SC（ストーンサークル）の会の会長として、特別史跡大湯環状列石の価値や魅力を見学者に伝えるため、展示室や遺跡の無料ガイドを行っている。

Fさんは、小坂まちづくり株式会社の代表取締役を務めている。国の重要無形文化財である康楽館や旧小坂鉱山事務所を活用した小坂町の観光振興を手掛けるほか、今年度より県金属鉱業技術センターの宿泊施設「ホテル小坂ゴールドパレス」、レストラン「青銅館」の運営もしている。

Gさんは、花輪ばやし若者頭協議会の会長を務めている。花輪ばやし当日の屋台運行の取り仕切りや調整を行うほか、市内外で開催されるイベントを活用したPR活動や後継者の育成等に取り組んでいる。

では、ここから先の進行については、かづのDMO推進室のAさんをお願いする。

事例発表

(司会：A氏)

はじめに、今日のテーマに関連する事例として、私が仕事としているヘリテージツーリズム・コーディネーターの役割や担当している事業などについて、少し御紹介させていただきます。

「大湯環状列石ガイド育成事業」では、前年度から大湯ストーンサークルの会の方々を対象とした英会話講習会を開催している。今年度はそこにガイドシナリオの英語翻訳

の事業を加えて、英語を使った外国人向けガイド対応の練習をしていきたいと考えている。コロナの情勢を踏まえつつ、実際に外国人を招聘してモニターツアーを開催し、その方々からフィードバックをもらい改善点を見つけ、次年度につなげたい。さらに、こちらのガイド育成事業を基にして大湯環状列石のジュニアガイド育成事業を計画しており、現在、十和田中学校の皆さんに協力を依頼中だが、中学生向け英語ガイドシナリオの作成と英語指導の補助を私どもで行う予定である。また、尾去沢中学校の「史跡尾去沢鉱山ガイドの取り組み」英語班の補助ということで、共同参画させていただいている。先日、尾去沢中学校と八幡平中学校のガイド交流会が史跡尾去沢鉱山で行われた。英語班の補助としてサポートと英語の指導を担当し、ガイドシナリオの英訳やフリートークの英会話指導、英語の発音指導などを行っている。

「縄文列車で巡る大湯環状列石・伊勢堂岱遺跡の周遊ツアー造成」については、今回、北海道・北東北縄文遺跡群が世界遺産に登録されることを祝して、「秋田犬ツーリズム」と「かづのDMO」とで連携して展開するものである。その中の一つとして周遊ツアーの造成を行っており、第1弾が既に販売されている。また、大湯環状列石・伊勢堂岱遺跡を中心とした秋田の縄文PR動画の作成については、今後、制作にとりかかる予定である。動画には地元の方々にエキストラとして出演していただきたいが、コロナの状況を考えると、どれだけの人数の方に出演していただけるか今の段階ではわからない。更に、この連携事業では、大湯環状列石と伊勢堂岱遺跡周辺地域で販売する縄文スイーツを開発している。これはドーナツ状の、フィナンシェ生地を使用した焼き菓子で、両遺跡で計6つのサークルがあることに掛けて6種類の味を現在試作中である。販売開始は10月を目標としており、発売された際には皆様にもぜひ食べてみていただきたい。

鹿角市民以外に向けた事業としては、世界遺産登録目前企画として、7月10日に大湯環状列石からのオンラインツアーを実施した。9月には大湯環状列石が世界文化遺産に登録されたことを前提に、「祝」世界遺産登録記念企画という形で第2弾を実施する予定である。来年1月には大日堂舞楽をメインコンテンツとしてオンラインツアーの第3弾を実施したいと考えている。当初は花輪ばやし特集のオンラインツアーも開催したいと思っていたが、残念ながら今年は中止となったので、来年度以降、またこのような機会があったらぜひ取り上げたいと思う。

プレミアムツアーの開催については、前年度と同じく8月に花輪ばやし、1月に大日堂舞楽をメインに開催する予定だったが、花輪ばやし中止となったので、8月の開催は中止し、来年1月2日、大日堂舞楽を中心としたツアーの造成と販売、添乗をする予定。

「旅するかづの」という私どものウェブサイトで大湯環状列石特集ページを開設した。大湯環状列石の世界遺産登録を記念した内容で、今後、順次様々なコンテンツを制作し公開していく予定である。

市内の周遊ツアープランや体験コンテンツの造成については、スキー場の夏場利用としてキャンプサイト開設を企画したり、木こり体験・釣り体験など等身大の鹿角を体験してもらえそうなコンテンツを造成し販売したりと様々な取組を行っている。

私どもの活動としては、これ以外にも多岐にわたるが、私個人のヘリテージツーリズム・コーディネーターの役割としては、やはり鹿角の歴史的、文化的に価値のあるものの魅力をどうやって外に伝えていくかということが重要だと考えているので、皆さんの協力をお願いできればありがたいと思う。

簡単だが、以上がヘリテージ・ツーリズムコーディネーターの紹介である。

意見交換（前半）

（司会）

ここからは皆さんの普段の活動内容や、その中で感じていることなどを順にお話しただきたい。

（B氏）

大日堂舞楽では、保存会のホームページを活用して常に情報発信をしており、特別なことがあればブログも使っている。今までカメラを持って遠くからいらっしゃる方が多かったが、今年の正月は残念ながらコロナの影響で自粛しなければならなかったので、事前にそのことを全国に発信する必要がある。かなりの方がホームページを見ておられるようで、たくさんの質問や問い合わせがある。無形文化遺産に登録されたときに冊子になったものを教育委員会の方で作っており、前は常に渡していたが、部数の関係もあり、現在は、欲しい人や直接来られた方に差し上げている。

それから、観光業者などが作ったツアーがこれまでも色々あり、例として、JR東日本の「大人の休日倶楽部」の古代をテーマとした講座などがある。大学教授が連れてきたツアーだが、映像を見たり、私がお話ししたり、いろいろなことをやっている。その他にも毎年二つ三つツアーがあるが、私どもが全く関与せずに来られる方もいるようである。

様々なところから大日堂舞楽をやってほしいとお誘いがあり、昔は正月以外にやればバチが当たるとは言わないまでも、良くないことが起こると言われて行ってなかったが、現在は、保存会で規程を作り、それに合わせてやることにしている。無形文化遺産に登録されたときには、鹿角市との共催という形で大きな体育館で1,800人ほどが集まった。また、自主企画だったが、大日堂舞楽が伝わって1,300年ということで、鹿角市の協力を得て行ったこともある。このときも500～600人、遠くは愛知県からも来られたということで、関心のある方が多数お見えになっている。これからどうなるかわからないが、単独ではなかなか難しいところがあるので、色々なところから協力を得られれば、何かの機会にまた企画をしたいと思っている。

（C氏）

私は去年から毛馬内盆踊同好会に所属し、現在はキャプテンを務めている。毛馬内盆踊同好会は、毛馬内盆踊りを継承する若手を育成していくため、7年前に発足した。毛馬内盆踊保存会の方々の熱心な御指導のもと、笛、太鼓、唄、踊りの稽古に取り組んでいる。

現在の同好会のメンバーは2年生1名、1年生4名の計5名で活動している。例年は8月の盆踊りへの参加をメインの活動として、それ以外にも道の駅でのイベント開催の際に盆踊りを披露したりしていた。今年は昨年同様、コロナ禍のため8月の盆踊りが中止となってしまったため、毎年11月に横手市のふるさと村で開催されている秋田県高等学校文化連盟の「郷土芸能・日本音楽合同発表会」にはぜひとも参加して、毛馬内盆踊りを披露したいと考えている。私は、去年、発表会に初めて参加して視野が広がった。これからも毛馬内盆踊りを続けていきたいと思っている。

(D氏)

本校の毛馬内盆踊同好会は7年前に発足し、保存会の方々の熱心な御指導があって成り立っている。ただ、少子化が進んでおり、十和田高校の生徒数は現在118人と数年前の半分くらいとなった。一方で部活動の数はこれまでと変わらないため、各部活で生徒を奪い合っている状態である。こうしたことから、同好会のメンバーを増やしたいところだが、同好会に入ってくれる余裕のある生徒がなかなか見つからない。

また、本校では、ふるさと学習「かづの学」という授業を行っている。地域を学んで、自分の生まれ育った地域に誇りを持って、自信を持つまでにつなげるという授業である。今年度、私が1年生の学年主任になったので、1年生に皆さんの若い力が必要だと呼びかけ、一緒に「かづの学」の中で毛馬内盆踊りをやらないかと話したところ、38人しかいない学年で16人も集まってくれた。この生徒たちと一緒に、11月のふるさと村で開催される発表会に向けて頑張っていこうとしているところである。

(E氏)

「大湯SCの会」の「SC」は「ストーン・サークル」の頭文字である。2019年8月に、前身の「ボランティアガイドの会」から任意団体「大湯SCの会」に改組し発足した。主な業務としては、遺跡及び展示室のガイド活動、市が主催する各所イベントや施設管理の補助業務などを行っている。また、昨年からは鹿角市の「共動パートナー制度」を利用して、窓口での料金徴収業務を受注し、市の教育文化施設である「大湯ストーンサークル館」の運営に協力しながら、大湯SCの会独自のイベントも徐々に始めている。

過去2年間の活動を通じて、官・民の意識の違いを実感している。博物館や美術館などには、普通、土産物売場がつきものだが、鹿角市ではストーンサークル館には設けていなかった。来館者から何か記念になる物が欲しいという要望が多かったので、昨年、売店を開設させてもらった。これは一例だが、縄文遺跡を有する他の自治体と比べて、遺跡に関する意識が、特に鹿角市は低いのではないかと感じている。それが一般市民の認識にも影響しているのではないか。毎年、お客様がどこから来たか統計を取っているが、鹿角市からのお客様は、隣の北秋田市からのお客様と同じくらいの数しか来ないことも、そうした認識の低さが背景にあるからではないかと感じている。

(F氏)

私は今年1月から小坂町にお世話になっていて、6月25日に小坂まちづくり株式会社の代表取締役役に就いた。御紹介のとおり指定管理事業を行っているが、国重要文化財である康楽館、小坂鉱山事務所、その他にレールパーク、ワイナリーと多岐にわたり、それぞれの施設にそれぞれの特徴があって、非常にいいものを持っており、こうした文化財をどのようにつないでアピールするのか、どうしたら皆様に利用してもらえるのか、というところが一番苦労しているところである。

康楽館は今で言う企業の従業員の福利厚生のもので建てられたもので、非常に洗練されて考えられた施設である。小坂鉱山事務所は明治時代に建築された事務所で、非常にモダンな造りになっている。また、小坂レールパークに関しては、東北地方で初めての施設である。

この他、小坂七滝ワイナリーでは、小坂町特有の土地柄を生かしたグリーンツーリズムやそこから派生した山ぶどうの栽培に取り組んでいる。ホテル事業においても、鉱山

の歴史や産業の歴史も含めて、いかに魅力的に発信するか、皆さんにどう伝えたらいいのか、フェイスブックの活用など多様な形で発信できると思うが、小坂町だけではなかなか難しいところがある。それを鹿角広域で連携していただいて、Win-Winの関係でやっていけるのが一番いいのではないかと思う。

企業なので予算に限られる中で、今一番力を入れていることは、先ほど紹介したワイナリー事業のワインツーリズムという形での事業展開である。土地の歴史、町の歴史、それによって生み出される販売、雇用、持続可能な目標など、できるだけ広域的に連携させていただいて、皆様のところと一緒に、一体となってやっていきたいと考えている。

(G氏)

花輪ばやしに参加できるのは基本的に41歳までとなっている。各町内の屋台の運行責任者を「若者頭」と言うが、その頭が各町内から1名ずつ代表して集まった組織が「若者頭協議会」である。町内が10あるので、その10名の中から1名が選ばれ会長になる。

例年であれば、10町内の屋台をどうやって運行していくか、そのとりまとめを行うのが協議会の役割だが、昨年、今年と2年続けて開催できなかったことから、今年は、特に後継者の育成が問題となっている。子どもたちが祭りに携わってくれないと将来の運営が厳しくなっていくだろうということで、今、子どもたちの育成に関わる取組を話し合っているところである。ただ、実際、保護者や地域の方々の理解を得るためには、安全対策をどうするかといったところの話し合いが多くなっている。

当面の課題として、41歳で卒業するという組織・ルールがある中で、2年間開催できなかったため、来年以降開催する場合に、責任者になる人が、その立場・役割などを傍で経験することなく、いきなり担当し開催しなければならないことになるので、その辺のこともこれから話し合っていかなければならないと考えている。

(司会)

それでは、これまで発表していただいた内容に関して、皆さんから何か御質問や御意見等があれば発言願いたい。

(E氏)

十和田高校の生徒数が減少して生徒の奪い合いになっているというお話があったが、鹿角市内には、八幡平地区に大日堂舞楽、尾去沢地区に鉾山跡、大湯地区にストーンサークルがある。さらに、毛馬内地区には盆踊り、花輪地区には花輪ばやしと旧町単位でそれぞれにすごい文化がある。奪い合いになるのはその旧町単位の中でやっているからではないか。

例えば毛馬内盆踊りのチームに八幡平地区や花輪地区の生徒を入れるのはどうか。ストーンサークルでは大湯地区の中学校だけではなく、鹿角市内や市外の生徒も含めてガイドとなる生徒を募集している。そうやって広く募集してはどうか。

(D氏)

地域それぞれに伝統文化があるので、単独で活動するよりも、お互いに他の地域と連携して活動できたら素晴らしいだろうと思う。

(局長)

ストーンサークルや大日堂舞楽などについて、いろいろな紹介があったが、Cさんは実際に観たり行ったりしたものはどのくらいあるのか。

(C氏)

私が実際に観に行ったことがあるのは、中学校でTAP（タップ：十和田魅力アッププロジェクト）という活動をしていたとき、大湯ストーンサークルにはガイドで行かせてもらったりはしていた。大日堂舞楽は、1月はじめ、正月に行われるため、顔を合わせに行かなきゃいけない親族や身内が多すぎて全然行けないという感じである。花輪ばやしは毎年行かせてもらっている。

(局長)

小坂町の施設に行ったことはあるか。

(C氏)

企業見学として1年生のときに見させてもらった。

(局長)

会社訪問という形で行ったということか。あなたや、友達で関心を持った人はいたか。

(C氏)

この会社へ行きたいなどという話はあまり出てこなかった。普通に部活とか勉強とかの話でいっぱいいっぱいな感じになっていた。

(局長)

関心が向かない理由は何だと思うか。

(C氏)

行って見学して「あっ、すごい」と思っても、基礎的な知識がなかったり、あと鹿角地域のいろいろなところを見学をさせてもらっても、広い視野を持っていないからだと思う。自分は将来鹿角を離れるから、鹿角にずっと住むからなどによって、関心を持つ人もいれば関心を持たない人もいるのではないかなと思う。

(司会)

将来を担う若い方の御意見をお聞かせいただいで大変勉強になった。

ここまでの内容について、知事から何かコメントやアドバイスなどいただければお願いしたい。

(知事)

実は、私のルーツはここ鹿角であり、和井内貞行のひ孫である。なので、大湯あるいは毛馬内にはよく来ている。

最初のEさんのお話について、非常に言いにくいですが、私もそう思うところがある。12年前に私が知事になった際、縄文遺跡の登録推進に向けて、麻で作った縄文衣装を着

て何回も東京に陳情に行ったが、確かに地元の方が少なく市役所の方もいなかった。私が大湯に来て、縄文遺跡が指定されると相当な面が変わってくるから、地元も大いにワイワイやろうと言ってもなかなか反応がなかった。

遺跡を分断している道路についてだが、鷹巣の伊勢堂岱の場合、ルートを変更した経緯もあるので、こちらも付け替えることは必要になると考えている。当時からのようにするのか、県でも検討はしていた。いずれ付け替えはやる方向である。また、ストーンサークルに関しては、二つの客層があることに注意すべき。単に観光したいという層と相当勉強して学習の場としている層がある。この対応を間違えると中途半端になる。相手によってどう使い分けるかということである。

いずれこの地域は題材がありすぎる。あまりたくさん資源があって、鹿角・小坂地域と言えれば何か、と言っても直ぐにぱっと出てこない。一方で、いろいろな題材をどう結びつけ印象づけていくかという視点も大事である。

後継者のことは、鹿角地域だけで囲い込まず、地域以外の人にも参加してもらうことが必要である。例えば、角館の祭りでは、会員になると半纏が着れるという特典がある。子どもたちには、お祭りのミニチュア版を与えて遊んでもらうとか、年中関心を持ってもらえるような取組も必要だと思う。

今、秋田県は秋田犬で海外にも相当なインパクトを与えている。外国人対応もたくさん来れば黙っていても対応できるようになる。行政と民間との連携で、まずは情報発信が一番重要だと思う。

意見交換（後半）

（司会）

ここからは、「ヘリテージの観光での活用」という視点から、それぞれの課題や今後の展望、目標などについて、それぞれお話しいただきたい。

（G氏）

花輪ばやしの展望や後継者育成ということに関しては、先ほどのEさんの御意見のとおり、花輪地区以外の子どもたちに参加してもらえるかを探るため、昨年、教育委員会の御協力により、鹿角市内の小・中学校にアンケートを取ったところ、十和田地区や八幡平地区でも機会があれば参加してみたいという小・中学生がいることが分かった。これまで花輪地区の小・中学校で祭りの紹介や指導をしているが、今年は十和田小学校の子どもたちにも花輪ばやしの紹介をさせてもらうことになったので、ぜひ魅力を伝えられるようなことをしたいと思っている。

ただ、花輪中学校や小学校のアンケートで、祭りに参加していない子の親御さんの意見として、花輪ばやしはお酒を飲んで暴れ回っており、印象が悪いので絶対参加させたくないという意見もあった。そういう部分もなくはないが、それだけではないというところを伝えていくようにしたいと思っている。

ヘリテージツーリズムの可能性ということでは、まずは、花輪地区以外の小学校で祭りの紹介をする機会を持てるようになったので、そこから発展させていければ、ヘリテージツーリズムにつながる取組ができるのではないかと考えている。

（F氏）

いかに皆さんと連携を取りながらやっていくかということが今後の課題と考えている。

一施設がどこまで皆さんに貢献できるか、非常に難しいところがあると感じている。観光のスタイルとしては、滞在型に持って行って、町で過ごしていただきながら自然を含め魅力を感じていただきたいと考えている。また、小坂町には国内有数の企業もあり、滞在から移住・定住という流れになり、ひいては町の発展につながっていくようになればと考えている。

一方、当社は指定管理を行う一企業であり、基本的には営利を目的としている。ただ、企業経営という面が前面に出ると身近に感じていただけないであろうことは認識しているので、文化財や施設の魅力をいかに発信し、皆さんに愛していただき、施設の素晴らしさを感じてリピーターになっていただくのかという点に注力したい。

今期の秋、9～10月には小中高の修学旅行の予約が非常に増えている。特に秋田市方面からは非常に注目していただいている。見学された方々には、小坂町の魅力を更に発信していただき、長期的な視野で、町、市、地域、県を含めて御協力いただいて、私どももそれに参加させていただいて、積極的にやっていければと思っている。

(E氏)

ハード面とソフト面という切り口で言うと、ハード面を整備できるのは県であり、市であり、我々民間の人間が何ができるかということソフト面であるということを前提にお話ししたい。

大湯環状列石については世界文化遺産への登録が迫っているが、最大の懸案である真ん中の県道については、情報が我々にも市民にもまだない。景観条例についても情報がない状況である。過去の他の地域の例を見ると、世界遺産登録を契機とした取組は一過性のものになりがちで、失敗するケースが多い。2、3年でブームがパタッと終わってしまうので、特にハード面の整備については長期的な視野で、他の自治体と連携して進めたいというのが私の考えである。

ソフト面の取組も場当たりのやっていると、ブームが去ったときに急に萎んでしまう。すぐにできなくても、長期的な視野で少しずつでも情報を共有して連携を深めていければいいなと考えている。そういう意味で、鹿角は広すぎる。題材も多すぎる。私がガイドする際には、各県から来る方に、鹿角には2泊3日でいらしてくださいと言っている。宿泊するところも温泉もある。鹿角全域のネットワークと情報の共有が重要で、オール鹿角で連携を進めていただければと思う。鹿角は道の駅がたくさんある。宿泊施設同士の連携も必要だと思う。そのためにも今日お集まりの皆さんに協議会を組織していただきたい。鹿角市と小坂町の連携を取っていただきたい。

(C氏)

数年前から生徒数が減少傾向にあり、それに伴って同好会員の数も減ってきている。毛馬内盆踊りは、踊り手だけでなく、笛、太鼓、唄もあるため、ある程度の人数が必要とされる。昨年度は、秋田県高等学校文化連盟の発表会には3年生の有志にも参加してもらい、出場することができた。今年度も同好会員が5名しかいないため、1年生の中から同好会へ入会してくれるメンバーを募り、同好会員を最低でも2、3人は増やしていきたいと思っている。十和田小学校、十和田中学校の出身の生徒には盆踊りの笛や太鼓を経験してきている生徒もいるので、そういった経験者や、他地域出身で盆踊りに興味がある生徒に声をかけて同好会メンバーを増やしていきたい、文化継承の活動の輪を広げていきたいなと考えている。

(D氏)

本校の毛馬内盆踊同好会は今年で発足8年目になるが、令和6年には鹿角地域の高校3校が統合するので、どういう形で新しい学校で継続していいのかまだ分からない状態である。他の高校の例を見ると、郷土芸能部という名前で活動しているところが多いようなので、郷土芸能部という名前で残って、花輪ばやし、毛馬内盆踊り、小坂よさこいソーラン踊りなど、複数の踊りを練習するのはけっこう大変だと思うが、何かしらの形で地域の文化を継承していければいいと思う。先人たちが残した450年の文化、またそれ以上続いている文化もあるので、若い世代に伝えていく手助けができたらと考えている。

(B氏)

貴重な文化財を維持、継承していくための課題は、やはり少子化が最大の問題だと思う。この問題を克服するのは難しいが、地元の人たちに理解を深めてもらい、これまで以上の協力を得なければならない。放課後の児童クラブなどでいろいろなものを教えていくとか見聞きできるような形で発信していくことが大事。ポスターとか色んなものを常日頃から目に付くようにしていかなければならないと思う。

現在は、小学校、中学校でボランティアガイドをやっている。

以前は、八幡平の小学校では子どもたちをあちこちに連れて行っていたが、行ったきりでどういう所か、後で分かっていないという状態だった。八幡平にはこういう素晴らしいところがあるのだということを見せ、小さい頃から頭に入るような方策をとっていく必要がある。同じ八幡平でも、やっている人たちは地域に関心がある、やっていないところは全く関心がない、見たことがない、こういうような状況である。本当に小さい頃から、すり込んでいく、そういうことをしていかなければならないと思う。

それから、今本当に深刻な少子化なので、幼稚園、保育園のうちから、他から連れて来るということもあるが、さっき知事がおっしゃったようなシステムを作っていかなければならない。簡単に来てくれということではいろいろな不具合が生じてくる。

もう一つ、神社に来られる外国人も結構いる。市は英語のパンフレットを作ったが、それもなかなか活用できていない。今の時代、来たらスマホのアプリで英語の話ができるとか、画像が見られるとか、そういうものを、子どもだけではできないので行政の手助けを得ながら発信して、誰が見ても分かるようなことができればいいのかなと思う。

連携の話が出ているが、私のところでは、かなり前から、ストーンサークルのどばんくんをお守りにしようと思っている。これは計画を立てているが、どういう素材がいいかなど、いろいろ考えている。桜の木がいいのか、何の木がいいのかというのもあり、その袋に鹿角特産の茜染とか紫紺染を利用するとか、幸いうちの若い者がそういうことをやっているので、そういうことも期待できるのかなと思っている。

最後に、これまで30年以上前から、市が保存伝承館を作る計画を立てるが、いつもおじゃんになる。やっぱり欲しいと要望しているが、予算面の事情もある。岩手県の早池峰神楽(はやちねかぐら)が旧大迫町(おおはさままち)時代に立派な建物を造り、花巻市になってからリニューアルして素晴らしい伝承館が出来ている。そうしたのがあると、他のいろいろな民族芸能の展示や、発信もできる。保存伝承館は是非欲しいと思っているので、そういうことが実現できるように、皆さんの協力を得てやっていきたいと思っている。

(司会)

皆さんの御意見を受けて、知事の方からアドバイスや御意見をいただきたい。

(知事)

注意しなければならないのは、いろいろな祭りで他の地域から参加してもらう場合に、会員制にしてもいいが、その方々を差別しないことである。角館の場合、その町内の人でなくても、しっかり祭りのことを分かっている人であれば、その人には役目を与えている。そういう姿勢を持つことが必要である。

ストーンサークルの県道は、付替え道について、いくつかの案がある。ただ、地元の事情もあるはずなので、最終的な合意は地元で取ってほしい。ルート設定に対する賛成反対については地元で調整してもらいたい。地元で検討してもらった上で、ルートを設定することが必要だと思っている。

それから、世界遺産の場合、基本的な目的は保存にあるので、あまり急激に観光地化すると2、3年でがくっと落ちる。細く長く保つという方向がいいと思う。そこにその他のファクターがいっぱいあるので、それらをどのように結びつけるか、どのようにリンクさせ情報を発信しながらお客様を呼ぶか、そのような戦略が必要ではないかと思う。

(司会)

今、知事から、伝承に関して他の地域の方々を呼ぶ際に差別をしない姿勢が大事というアドバイスがあった。このことについて、どのような対策を講じていけば、すんなりと他の地域の人たちに伝承に関わってもらえるか、皆さんの考えや提案、実際に実施されていることなどがあったら教えていただきたい。

Bさんは他の地域の小学校などではどのように教えているのか。

(B氏)

小学生はほとんどが低学年の生徒が来るので、教えるのは大変難しい。うちの神社は1500年前からあるが、最近、先生から「まだ2年生なので千の単位を教えていない。」と言われて困った。「むかし、むかし…」と言わなきゃならない、というようなこともあったり、なかなか難しい。先ほど言ったように子どもたちへの発信を鹿角地域全体でやっていかなければならないと思う。

(司会)

Gさんも十和田中学校と花輪中学校の合同授業の中で、花輪ばやしを十和田中学校の生徒にも紹介する予定とのお話だったが、その際に気を付けたいと思っていることはあるか。

(G氏)

現状でも、他の地域の子どもや大館の中学校に通っている生徒や十和田中学校の生徒に参加してもらったりしているが、やはり、友達がいないと参加しづらいとか、伝手が無いというところがどうかと思っているので、それこそ差別はしない、どなたでも参加できるということをしっかりと伝えていきたいと思う。実際、もともとは町内のお祭りだったが、各町内も子どもたちが少なくなっているのも、既にもう町内以外の子どもの

方が多い町内がほとんどである。そのような取組をしていければと考えている。

(知事)

朝までやらないのか。また、学校は休みにならないのか。

(G氏)

朝というか、8月20日の夜中0時からスタートして朝7時くらいまでやるが、小・中学生はなかなかそこまで起きていられないので、途中で帰ってしまう子が多い。

また、花輪地区の学校は、だいたい22日まで夏休みである。

(司会)

先ほどDさんから、大館市の子どもが参加しているとの話があったが、何か問題はないのか。

(D氏)

当校で大館から通っている生徒は毎年数名、多い年には4人位いたが、毛馬内盆踊同好会に入った場合、練習時間が夜8時までなので、帰りの花輪線に間に合えばいいが、その時間帯の電車がなかったので、御家庭の協力がないと成り立たないと思っている。今のところは御協力いただけている。

(E氏)

花輪線には問題がある。花輪線も含めモビリティの問題が結構重要である。かつて花輪線で花輪ばやしを観に来て帰って行く人たちが結構いた。七夕まつりもある。毛馬内盆踊りを花輪地区から花輪線を使って観に行ったという人も結構いた。大湯ストーンサークルだと駅から遠いのでちょっと例外だが、モビリティがどんどん下火になってきて、公共交通機関が衰退してきたというのが、いまいち盛り上がりにかけている要因でないかなと感じている。

以前、藻谷浩介氏が、花輪線自体に魅力がある。湯瀬溪谷だったり、吹雪の中を列車が走る風景だったり、都会の人には経験できない魅力があるという話を講演でしていた。例えば、大日堂舞楽は正月、花輪ばやしと毛馬内盆踊りは夏、小坂町と環状列石と尾去沢鉱山はたぶん通年でやれる。だから、通年で集客できるような魅力を発信できるようなことを考えた方がいいのではないかと思う。そのためにも、モビリティをもう少し充実していただきたい。それが前提になるのではないかという気がする。

(司会)

実際、周遊ツアーなどのプランを造成していても、私どもの方でやっぱりこの施設からこの施設へどうやって行ってもらおうかと頭をひねる部分があり、今後行政と連携を取り、協力していかなければならないところだと感じている。

それでは、最後に知事からコメントをお願いしたい。

知事総括

交通の便の確保は、交通事業者がペイすることが前提となる。ペイしない部分があれば

ば行政が負担するというやり方も考えられる。一定の人数がいれば臨時列車が出たりするが、その位のボリュームがないと簡単にいかない。大曲の花火の場合は相当数の観光客がいるから臨時列車が運行されている。

例えば、富山の八尾の盆踊りの場合は街中に車を入れないようにしている。遠くから来る車は1ヶ月以上前から予約が必要で台数制限もある。また、駐車場は何百台分もあるが、駐車料金は高く、中心部では1万円近くになる。そういうことで車で来ることを制限すれば公共交通を使うということになり、臨時列車が運行される。

通年での観光資源の活用ということについては中々難しいところがある。ストーンサークルは、冬になると雪で遺跡が埋まってしまうのでは。

(E氏)

埋まってても、ちょこっと出ている。そこがまたいい。

(知事)

では、それを売り物にすればいい。カンジキを履いて見に行くとか。あとは縄文の暮らしの体験。火起こしも他では結構やっている。

(E氏)

火起こしは、縄文生活の体験ということで、一昨年まで縄文祭のときにやっていた。コロナの影響で中断している。

(知事)

遊び心も必要だと思う。案内する人が縄文人の服を着るとか、他では結構やっている。昔、飛騨の高山に行ったら、市の観光課長が半纏を着て客の呼び込みをやっていてそれがとても上手だった。

こちらは食も豊富で、それも含めて観光資源がたくさんある。スポーツのイベントもあるし、もったいない。県も頑張るが、市、町、観光団体、商工会、DMO、全部まとまって、是非それらを活用してほしいと思う。

(司会)

この場を借りて皆さんに御協力をお願いしたいことがある。大湯環状列石は世界遺産登録が決定したら、観光記念マップのようなものを作成したいと考えている。そのマップが、市内の周遊コース作成につながり、そして、鹿角にいらっしゃった方々にそのマップに載っているところをみんな巡ってみようと思ってもらえるようなものを作りたいと思う。ただ、現在作成予算が付いている訳ではないので、皆様の御協力もお願いしなければ完成は難しい。詳しくは、決まり次第、皆様のところにまたお願いにあがるので、その際はどうぞよろしくお願いしたい。

本日は、参加者の皆様にいろいろと率直な御意見をいただき、知事からも具体例を織り交ぜながらのアドバイスをいただいた。会の進行にも御協力いただき感謝申し上げます。それでは私の役目を終わらせていただきたいと思います。

(局長)

以上をもって、本日の意見交換会を終了する。皆さんには御多忙のところ御協力いた

だき、心より感謝申し上げます。意見交換で出された意見、提案等については、今後の県政運営において参考にさせていただくほか、できることについては着手していきたい。何か気付いた点や別途尋ねてみたいことがあれば、気軽に振興局あるいは県総合政策課に連絡いただきたい。